

平成29年度

総務文教常任委員会 視察研修報告

期 日：平成30年2月13日(火)～14日(水)

調 査 地：(1) 宮城県南三陸町
(2) 宮城県多賀城市

調査内容：

- (1) 災害教訓の伝承、防災教育の取り組み状況について
- (2) 人気の近代公共図書館の現状と変化する図書館の魅力について

国見町議会

松 浦 常 雄 委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
東 海 林 一 樹 委員	・ ・ ・ ・ ・	4
八 島 博 正 委員	・ ・ ・ ・ ・	5
佐 藤 定 男 委員	・ ・ ・ ・ ・	6
松 浦 和 子 委員	・ ・ ・ ・ ・	7

平成29年度総務文教常任委員会視察研修報告書

平成30年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

【調査内容】

1. 災害教訓の伝承、防災教育の取り組み状況について

(1) 「名足小学校の防災教育の取り組みについて」

- ①名足小学校の校舎の1階部分は、津波で土砂が入ったため、普通教室をすべて2階にし、1階は特別教室とした。また、校舎の2階と同じ高さの一次避難場所（職員駐車場、体育館）への避難通路を増設した。さらに、体育館脇に新しく階段を設けて二次避難場所（畑）への通路を確保した。そこからより安全な保育園へ避難できるルートを決めて訓練している。
- ②年間の防災計画を作成し、消防署、保護者等地域の人々と連携し、避難訓練の質を高めるように努めている。消防署を始め、地域の人々が熱心に協力している。

(2) 「歌津中学校の防災教育の取り組み」

- ①「少年消防クラブ」を編成し、避難訓練や消防活動など、消防署をはじめ地域の人々の協力を得て、質の高い訓練を行っている。当校の「少年消防隊」は、全国大会や国際大会へ参加して好成績を上げている。
- ②担架作りやご飯の炊き出しなど、避難所運営訓練を行っている。
- ③防災についての知識、理解を深めるとともに、防災の大切さを認識させるために、宮城県で作成した「防災教育副読本」を活用している。
- ④訓練の数は多いが、[総合的な学習の時間]を充ててカリキュラムの範囲で実施している。

2. 人気の近代公共図書館の現状と変化する図書館の魅力について

(1) 多賀城市立図書館

- ①JR仙石線・多賀城市駅の北口からすぐの3階建てのビル。建物全体は、7013㎡あり、図書館分は約半分の3342㎡、残りは蔦屋書店、カフェ、コンビニ、レストラン、共有のスペースが占める。
- ②レストランも、本屋も客が多く賑っている。
- ③市立図書館で、白川静の「字統」と「字訓」を閲覧させてもらった。値段は、「字統」は約18,000円、「字訓」は、17,000円ほどであった。以前から一度目にしたい「辞典」であった。「字統」は、甲骨文字の起源・進歩から漢字の歴史を詳しく解説したもので、読み物としても面白いと思った。「字訓」は、「和語」

の語源や意味の拡大変遷などを詳しく解説したもので、時間をかけて読みたいと思った。豊かな蔵書を有する図書館である。

【調査の結果】

- ① 南三陸町は、先の大震災に伴う大津波により多くの尊い人命を失い、住居、仕事場などの財産が壊滅的な被害を受けた。その教訓を生かし、防災教育に特に力を入れている。また、住居は高台に、仕事場は海岸へと考えて、命を守ることと仕事場の確保を両立させようと努めている。現在、道路の整備、河川の改修、住居の高台移転など大規模な工事が進められている。
- ② 自治体も学校も、児童生徒の命を守ることを重視し、防災主幹という防災専任の教諭を学校へ配置するなど、制度面の改革がなされている。防災主幹がリーダーシップを発揮し、防災教育が真剣に、熱心に行われている。
また、学校と地域の人々が協力し、防災訓練に熱心に取り組んでいる。
- ③ 国見町は津波の心配はないものの、尊い人命を守るために、火災や地震を想定した町ぐるみ、地域ぐるみの防災教育と訓練を行い、常に自らの命を自ら守る意識を高めるとともに、協力して弱者を手助けする体制を作ることが必要であることを認識した。
- ④ 一般に、図書館は利用者が少ないという。そうした中、多賀城市の市立図書館は、市民の多くの人々が利用しやすい場所にあり、蔵書も多く、多くの人が利用していると感じた。また、くつろげる空間として工夫されていることも来館者の増加につながっていると思う。
さらに、書店やレストランとの複合施設であることが特徴で、市民の身近にある図書館として、気軽に足を運べる図書館であると思った。これからの図書館のあり方を示していると思った。
- ⑤ 国見町には図書館はないが、観月台文化センターに図書室がある。目に触れる本はかなり古いものが多く、貸し出しがどのくらいあるのかよくわからないが、町民からの図書館に対する要望はほとんど聞かれない。
しかし、児童向けの図書は毎年新刊書を購入し、小学校へ移動して貸し出しもしており、かなり利用されている。子どもたちも移動図書館を待っているようである。
観月台文化センターの図書室は、児童の読書に大きな役割を果たしている。小さな町には、大きな図書館は負担が重いので、現状のままでよいと思う。

以 上

平成29年度総務文教常任委員会視察研修報告書

平成30年2月21日

国見町議会議長 東海林一樹

【調査内容】

1. 災害教訓の伝承、防災教育の取り組み状況について（南三陸町）

南三陸町は東日本大震災で死者700人（行方不明者含む）を超え、住宅が全世帯の6割近く津波で流され全壊するという甚大な被害を受けた。町の様相は一変してしまい、至る所が工事中でダンプカーが忙しく行き交う状況で、まさに復旧、復興半ばの感じだった。

まず、震災後に開設した「さんさん商店街」を視察した。商店街には飲食店、衣料品店、土産店、海産物店など28店舗が営業していて、テレビでも何回となく放映され、今ではすっかり町の名所となっている。

その後、震災被害で昨年9月に完成したばかりの真新しい庁舎を訪問した。山内副議長等から歓迎を受け、名刺交換をさせていただき、庁舎内を案内され議場などを視察した。

その後に役場職員の案内で町立名足小学校を訪問し、佐藤教育長から歓迎の挨拶があり、根本校長と担当職員から防災教育の取り組みについて詳しい説明を受けた後、若干の質疑応答を行った。

次に、町立歌津中学校の及川主幹教諭から少年防災クラブ等の取り組みについて説明を受けて終了した。

翌日14日には多賀城市に向かい、JR多賀城駅のすぐ裏にある市立図書館を視察した。エレベーターが2基ある3階建ての立派な建物で、かなり大きな図書館である。1階の一部は蔦屋書店のほかカフェ、コンビニ、レストランが入っており、ウィークデーにも拘らず利用客もかなりあった。蔵書数は約23万冊あり、借りたい本を探すのにパソコンで検索できるシステムが備わっており、とても近代的な図書館である。

【感想】

南三陸町は子どもたちへの防災教育が熱心に行われていることは理解できたが、震災での被害規模は甚大で、町が一変してしまい、全く新しい町をつくっている最中だと感じた。

多賀城市立図書館は、これからの図書館はこうあるべきだと示しているのではと感じた。

以上

平成29年度総務文教常任委員会視察研修報告書

平成30年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【調査内容】

1. 災害教訓の伝承、防災教育の取り組み状況について（南三陸町）

- 午後1時より町役場（平成29年9月完成）を訪問し、副議長より挨拶を受けた後議場を視察。
- 午後2時より4時30分まで名足小学校訪問、校舎内を見学後、名足小学校および歌津中学校の防災教育の取り組みについて説明を受けた。
- 宿泊は「南三陸まなびの宿いりやど」、また南三陸さんさん商店街を見学。

2. 人気の近代公共図書館の現状と変化する図書館の魅力について（多賀城市）

- 2日目の午前11時30分より午後3時まで、多賀城市立図書館を見学。午後4時30分、国見町役場着。

【感想】

- 震災から6年が過ぎ、平成24年に訪問した当時に比べ大きく復旧が進んでいた。役場庁舎の完成や自動車道も海岸インターまで開通し、さんさん商店街も新しくオープンしていた。
- 名足小学校も海岸の高台にあったが、2階まで浸水の被害が大きかったが、教室を2階に全部移して再開しており、その後の防災について十分配慮がされており、良い現況を知ることができた。
また、歌津中学校の防災教育の中でも、少年消防クラブの取り組みは素晴らしい。
- 多賀城市立図書館は駅前にあり、中には本屋やレストラン等が営業しており、市立図書館に対する概念が一変させられた。

以上

平成29年度総務文教常任委員会視察研修報告書

平成30年2月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【調査内容】

1. 南三陸町立名足小学校及び歌津中学校の防災教育の取組み状況

- 名足小は海が近く、東日本大震災時は津波の被害を受け1階部分が大きく損傷した。地元町民の強い要望により校舎を修繕、2階のみで授業を行なっている。
- 学校防災本部が組織され、毎月11日を防災の日と定め、年間指導計画に沿って指導・訓練がなされている。
- 避難通路も新たに整備された。第3次避難場所まで約10分で移動できる。
- 歌津中学校では、平成23年11月に全校生徒で組織する「歌津中学校少年防災クラブ」を発足させた。
- 「自らの命を守り、ともに生きよう」をテーマに掲げ、負傷者の応急処置・救助、火起こし・炊き出し訓練など実践的な訓練をしている。
- 生徒のモチベーションも高く、全国大会、世界大会にも出場している。

2. 多賀城市立図書館（近代公共図書館の現状と変化する図書館の魅力）

- 多賀城駅すぐ近くにある3階建のビルで、蔦屋書店を運営するCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）が管理している。
- 図書館としての機能の他に蔦谷書店、カフェ、コンビニ、レストランもあり、まさに「市民の家」にふさわしい。

【感想】

- 名足小学校、歌津中学校の防災教育は先生の指導と児童・生徒のやる気がうまくマッチして大きな成果をあげている。
- 南三陸町の人たちは大震災を乗り越え日々の生活を頑張っている。
- 多賀城市立図書館はこれまでの図書館のイメージを大きく変えた。管理者が民間であり、経営の思考と大資本がバックにあるからだろう。

以上

平成29年度総務文教常任委員会視察研修報告書

平成30年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

【調査内容】

1. 災害教訓の伝承、防災教育の取り組み状況について（南三陸町）

(1) ・宮城県南三陸町役場 ・南三陸町立名足小学校視察

- ①名足小学校の防災教育の取組について山内弘一安全担当主幹教諭より説明
- ②防災に係る名足小学校施設見学
- ③南三陸町立歌津中学校の防災教育の取組について及川敦主幹教諭より説明

(2) 宮城県多賀城市立図書館見学

【感想】

まもなく東日本大震災から7年を迎えるが、児童は前向きで明るい声での挨拶だった。教育委員会と小中学校の教育現場との連携の強さを感じた。学級担任を持たない「安全担当主幹教諭」の存在は大震災の教訓を伝え、今後への防災教育のリーダー養成には欠かせない役割を担っている存在と認識した。

歌津中学校には全校生徒で組織された「少年防災クラブ」がある。このクラブは、震災発生前から発足を計画していたクラブで、正式に発足したのは平成23年11月とのことである。平成25年には防災功労者として「内閣総理大臣表彰」を受賞し、その活躍は全国に紹介された。地域連携の取り組みも活発で、2つの組織が支援している。歌津中学校の生徒は将来、全国各地で防災のリーダーとしての活躍が期待される。

宮城県多賀城市立図書館は、3階建ての建物で、外観は美術館の雰囲気があり、図書館とは思えない施設に驚いた。1階には書店が入り、カフェも併設され、女性のグループや高齢のお客も多く利用されていた。仙台は学生の町と言われているだけあって、学習スペースは多くの学生が勉強していた。蔵書数23万点というすべてが初めての図書館だった。2日間の視察は大変有意義な研修だった。

以上